

福島県学童クラブ連絡協議会の 設立と今後の課題

山田和江

福島県学童クラブ連絡協議会・会長

二〇一一年三月一日の東日本大震災は、東日本、とりわけ岩手県・宮城県・福島県に甚大な被害をもたらしました。そのうえ福島県では、原発事故により、さらなる被害を受けています。

二〇一一年八月、福島市において、全国学童保育連絡協議会事務局の方と、いわき市学童保育連絡協議会、福島市学童クラブ連絡協議会の役員が、懇談会を実施しました。そこでは、それぞれの地域の被害状況や学童クラブの厳しい現実が語られ、引き続き、情報交換をしていくこととなりました。

被災した地域の南相馬市に、福島市学童クラブ連絡協議会からの義援金を届けに行った際、津波で流された場所や、小学校で間借りしながら元気ががんばっている学童クラブの子どもたちと指導員の様子を見て、我々が勇気づけられました。そして、

こんななかで、私たちが力をあわせて何ができるか、何をしなければいけないかを考えたときに、県内の学童クラブが力をあわせてはげまされ、子どもたちを育てていかなければならないという思いがつのりました。

その後、全国学童保育連絡協議会・いわき市学童保育連絡協議会・福島市学童クラブ連絡協議会の役員と、郡山市学童クラブ有志の方とが月一度の情報交換会を行い、県内の学童クラブのネットワークを築いて、保護者や指導員の研修の場を作り、震災と放射線被害から共に立ち上がるため、福島県学童クラブ連絡協議会設立をめざすという結論にいたりしました。

福島県にはこれまで、県の学童保育連絡協議会がありませんでしたが、全国学童保育指導員学校（東北

会場）を三回開催し、指導員の資質の向上と、県内の学童クラブ関係者の交流を深める取り組みを行ってききました。

ここでようやく、永きにわたる念願であった、福島県学童クラブ連絡協議会設立が現実のものとなりました。主な活動としては、子どもを主役とした、情報交換や学習会、県内の学童クラブのネットワークづくり、学童クラブの資質の向上、行政と共によりよい学童クラブを作る取り組みを進めていきたいと考えています。また、活動方針に「東日本大震災及び放射線被害から子どもたちを守るために必要な支援を推進します」をあげ、県内の学童クラブの子どもたちを放射線被害から守る取り組みを進めていきたいと考えています。

二〇一二年六月三日に行われた設立総会には、福島県担当課長からのごあいさつと、福島市長のご

あいさつ（担当課長による代読）、福島県選出の国会議員でご臨席いただいたお二人からごあいさつをいただきました。また、八名の県議会議員、栃木県学童保育連絡協議会の皆様のご臨席を賜りました。あたたかいお言葉とたくさんのお祝電・メッセージをいただき、盛会のうちに終わられましたこと、感謝申し上げます。

また、福島県学童クラブ連絡協議会設立に向けて、東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県・川崎市の学童保育連絡協議会事務局を訪問し、勉強できましたことも、設立に向けて大きな力となりました。訪問させていただいた連絡協議会事務局関係者の皆様にも感謝申し上げます。

当面の課題は、岩手県・宮城県と同様に、東日本大震災からの復興です。とくに、放射線被害に關しては、長期的な問題ではありま

すが、子どもたちのため、保護者のため、学童クラブの発展のために、皆様のご支援をいただきながら、力を合わせてがんばってまいりますと思います。

* * *

福島県内には、放射線被害が原因による移転・引越などにより、学童クラブに入所する子どもの数が減少しており、運営が厳しくなっている学童クラブもあります。外で過ごす時間が制限されている子どもたちに、思いっきり外遊びをさせたいと願い、バス旅行などを続けている学童クラブもあります。少しでも子どもたちに安全で安心して生活できる学童クラブづくりや環境をつくらせていきたいと努力しているところで

す。全国の皆様のご支援・ご協力を、これからもよろしくお願いいたします。